

M1 INTERVIEW 2018

#02 interview

川田 七海

静岡県/静岡高校卒

趣味：カメラ



1. 研究室での研究生活のスケジュールはどのようなものですか？

時期によりますが、普段は毎日10時過ぎに研究室に来てあれこれ作業をし、19時か20時くらいに帰ります。ご飯は研究室の皆で食堂に食べに行くことが多いです。忙しい時期は終電ギリギリくらいの時間帯までいることもあります。RCNSはキッチンもシャワーも仮眠を取れる部屋もあり居心地がとても良いので、ついつい長居してしまいます。

2. RCNSに決めた理由、きっかけ

高校生の時から素粒子物理学に興味があり、特に加速器を使った実験よりKamLANDのような非加速器の実験の方が直感的に「やりたい」と思ったので、RCNSに決めました。また、RCNSが設備面で極めて充実していると感じたことも理由の1つです。



3.どんな研究をしていますか？テーマはどのように決めましたか？

KamLANDのPMT(光センサー)から出てくる信号を処理してデータを取得するための電子回路の開発や、宇宙空間で起きる太陽フレアやガンマ線バーストといった爆発的な現象と地表で観測できるニュートリノの関係についての研究をしています。ハードウェア開発にもニュートリノ解析にも興味があったので、直感的に面白そうと思ったそれぞれ一つずつに取り組むことにしました。

4.物理（素粒子研究）のおもしろいところ、魅力

「この世界は何でできてるのか。」 「この世界はなぜこのようになっているのか。」 「この世界は将来どうなるのか。」といった、長い歴史の中で神話で説明することしかできなかった疑問に迫る最も新しい方法であること。



5.大学院に入ってからの変化

研究活動は授業と違っていつやるかは全て自分で決められるので、自分の好きな時にやりたいことをするようになりました。また、研究室の用事で仙台を離れ他の都市に行くことが年に何回もあるので、移動が増えました。時期によってはひと月の半分近く仙台を離れることもあります。

6.マイブーム

出張先で美味しいものを食べること。

7.息抜きの方法

寝る。美味しいものを食べる。やらなければならないことを全て投げ出して一日遊びに行く。



8.毎日欠かさない事

コーヒー豆を挽いて美味しいコーヒーを飲むこと。

9.好きな本

「宇宙は何でできているのか」村山齊 僕が高校1年生の時に読んで、自分は大学の物理学科に入って素粒子物理をやると決めたまっかけになった本です。大学で物理を勉強し始めてから改めて読むと高校生の時には理解しきれなかったところも理解しながら読めるので、今でも時々読んでいます。 「これからの「正義」の話をしよう」 Michael J. Sandel NHKの”ハーバード白熱教室”の先生が書いた哲学の本です。僕は一旦物理のことを頭から抜いてリフレッシュしたい時に本を読むので、難しい物理の本は滅多に読まず、このような本が好きです。

10.未来の後輩に一言！

やりたいことしよう！！！！